

平成 24 年度事業計画書

(平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)

本年度は、公益社団法人への移行に伴い日本工学会の社会的使命の原点に立って新たなスタートの年である。折しも日本は経済と財政と社会保障の三位一体的再生に向けたエンジンを必要としており、同時に東日本大震災と福島原発事故からの復興を確実に実現せねばならない、明治維新、敗戦後の戦後復興に次ぐ第三の国創りの重大変革期にある。

科学技術創造立国を国是とする我が国にとって、100 余の工学系学協会を会員とする日本工学会の社会的使命とその実践が、133 年の歴史において今ほど強く、社会から求められている時はないと言えよう。

日本工学会は以上の社会的使命の認識に立ち、平成 24 年度に以下の事業を行う。

公益事業 1. 学協会連携及び工学振興・調査・国際会議事業 (定款第 4 条 1 号、2 号)

1. 学協会連携・工学振興事業

① 事務研究委員会(事務研)の開催

正会員の事務局代表者の連絡・協力の場として、「事務研究委員会」を 8 月を除く毎月 1 回、計 11 回開催する。新公益法人制度における学協会運営上の課題はじめ、共通するテーマに基づく調査や学習および情報交換などを活発に行い、会員学協会のほか、工学分野の組織運営に有益な情報提供を行う。

② 日本工学会年報 平成 24(23 年度実績)年度版 51 号の発行

発行年月日 平成 24 年 11 月末日予定 発行部数 250 部

③ 日本工学会シンポジウム

定時総会に合わせて午後で開催してきた恒例の「日本工学会講演会」は、本年は公開シンポジウムとして、「東日本大震災と福島原発事故に学ぶ工学の原点と社会的使命」をテーマとして開催する。基調講演、昨年度大震災対応活動を展開した関係学協会からの報告や提案、その後パネルディスカッションを行う。

④ 医工連携・医療工学推進事業

日本独自の先端的医療技術開発とその医療産業育成促進を図るため、「医療テクノロジー研究会」が中心となり、本年度は医療機器開発に伴う諸問題の解決策を模索するシンポジウムを開催して、多方面からの知恵を結集する。日本医工ものづくりコモンズの活動と連携して、ものづくり現場と医療現場を結ぶ仕組みの構築を目指す。

⑤ 認定および表彰

- ・日本工学会「功労賞」について本年も受賞者の選考を事務研の選考委員会に付託する。
- ・日本工学会「フェロー」について、昨年の第 2 回認定に引き続き、本年も第 3 回として認定を行う。

2. 国際協力・国際会議事業

① WECC2015 開催準備推進事業

2015年のWECC2015(世界工学会議)の開催に向けて、本年4月に「実行委員会」を立ち上げ、さらに「国内組織委員会」を約80機関の参加により、第1回国内組織委員会を本年7月に開催するため、実行委員会において準備を開始する。

実行委員会に専門事務局を開設し、専用ウェブサイトの開設や、パンフレットの作成、広報活動などを開始する。

- ② 本会が担当するWFEOの「災害リスクマネジメント分科会」の国際シンポジウムを、本年も9月頃に協力学協会の大大会に合わせて日本で開催する。東日本大震災の事例報告や議論を通して世界に発信していく。またWECC2015のテーマにつなげていく。

公益事業2. 人材育成・技術者教育推進事業(定款第4条4号)

3. 科学技術人材育成事業

① 科学技術人材育成コンソーシアム

・本年は、中期計画の3年目として、専用ウェブサイトを構築・運営し、青少年の科学技術教育に関する全国の実践事例や、工学系各学協会が実施している科学・技術教育の調査結果を収集しつつ広く紹介していく。また更に企業などとの連携の拡大を目指す。

・初等中等教育における科学・技術教育の充実のために、シニア研究者・技術者を教育現場へ派遣するため、資格基準などを検討する。

調査結果などを踏まえて、情報共有化や今後の展開を議論するために、シンポジウムを開催する。

4. 技術者教育・CPD促進事業

① CPD協議会事業

CPD協議会にはCPD(Continuing Professional Development)WG、ECE(Engineering Capacity Enhancement)プログラム委員会の2つのWGがあり、このWGが中心になって技術者の育成に関連した次のような活動を進めていく。

・CPD WG

1) 学協会におけるCPDプログラム開発および質の向上への支援。特に、技術者の信頼性回復につながるプログラムの発掘および周知に重点を置く。

2) ポータルサイトを利用した学協会のCPDプログラムの公開

・ECEプログラム委員会

1) ECEプログラムの充実(新規プログラムの開発)

2) ECEプログラムの周知活動

5. 技術倫理促進事業

① 技術倫理協議会の活動

・平成24年度にはワーキング・グループの活動などの活動も合わせ、東日本大震災全体での技術者の責任を考えると同時にこのような技術に関連する事故の再発防止策を検討していく。

平成24年度の公開シンポジウムでも、このワーキング・グループの活動をベースに、社会に対する技術者の責任、技術に関連する大規模事故の問題、設計時に技術者が考えるべきこと、などの中からテーマを選び12月ごろに開催する予定である。

講演会の開催計画 (定款第 4 条 3 号)

①日本工学会公開シンポジウム

日 時：平成 24 年 4 月 20 日(金) 13 時 15 分～17 時 30 分

場 所：建築会館ホール 参加予定 150 人 講演 7 題、パネル討論

内 容：「東日本大震災と福島原発事故に学ぶ工学の原点と社会的使命」

②医工コモンズシンポジウム(2 回開催予定)

開催時期：平成 24 年 9 月、25 年 3 月

予定会場：慶応大学三田ホール

③災害リスクマネジメント国際シンポジウム

開催時期：平成 24 年 9 月初旬

予定会場：国内・未定

④CPD 講演会

開催時期：平成 24 年 10 月

予定会場：建築会館ホール

内 容：CPD に関する基調講演および先端的活動の紹介、CPD 協議会 WG の活動報告など

⑤科学技術人材育成シンポジウム

開催時期：平成 24 年冬に開催を予定

予定会場：日本学術会議 講堂 参加予定 150 人 講演、事例、討論

⑥技術倫理協議会公開シンポジウム

開催時期：平成 24 年 12 月予定

予定会場：建築会館 参加予定 150 人 講演、事例、討論

以上